

2. 交流内容に関する事項

(1) 交流内容について(できるだけ具体的にご記入ください)

① 交流名 (事業名)	(1)洛陽市での緑化協力事業 (2)岡山市民訪問団派遣事業 (3)日中医療交流促進事業 (4)リモート交流事業
② 交流の内容	(1)洛陽市の北部に流れている黄河沿いの緑化事業への協力。2年間の協会独自の取組みから始めたが、2005年より2017年の間12年間は日中緑化交流基金の助成を得て、約300haの植林事業を達成した。そして2021年、日中友好会館の「日中植林・植樹国際連帯事業」助成により、面積10.5ha11,655本植樹の緑化協力事業を新たに開始した。 (2)友好都市締結以来、4月に洛陽市で開催される洛陽牡丹文化祭に合わせて、市民に呼びかけ洛陽市への市民訪問団を企画。岡山市も同時期に公式訪問団を派遣し、官民挙げて洛陽市民交流を展開している。5年ごと、10年ごとの周年にはチャーター便での大型訪問団も実施してきた。 (3)2008年より、洛陽市の病院と岡山県内の医療交流を開始し、医療関係者の相互視察訪問、医師や看護師の相互研修派遣などを実施してきた。 (4)コロナ禍の中、オンラインでの交流を実施した。①本年4月には友好都市締結40周年記念日に合わせ、洛陽市と岡山市のお寺でオンラインを通じて友好の鐘を撞き合い友好を確認しあった。②本年2月から中学校のオンライン教育交流を実施。岡山大学付属中学校と洛陽市の洛陽外国語学校との間で双方約300名の生徒交流を実現。11月には岡山市立操山中学校と洛陽市の東昇第二中学とのオンライン交流を開始。12月には双方約500名規模の交流を計画している。
③ 背景・経緯	(1)洛陽市との交流協議の中で、黄河流域での土砂流出、黄砂による環境汚染、水質保全への協力の要請があり、2003年から協会が募金を募り、植樹苗代の一部に充て、事業を開始した。その後、日中緑化交流基金の助成が決定し、12年にわたり緑化協力活動を展開した。この基金が2018年に終了し、2021年より新たに日中友好会館の事業が始まり、当協会も3年計画の申請が認可された。 (2)友好都市交流は行政と民間が協働して実施する中で、相互理解が深まりより大きな効果が得られる。当協会は民間団体として、岡山市と協力しながら市民交流の窓口としての役割を担っている。 (3)岡山は総合病院の数が多く、医療先進県を任じている。また協会役員や会員に医療関係者が多く協会内に日中医療交流促進委員会を設置し、県下の病院への協力依頼をして視察訪問の受入れなどに協力いただいた。 (4)従来より協会は教育交流を重視し小学校の相互訪問などを実施してきたが、コロナ禍の中、直接の往来が出来ないため、オンラインでの学校交流を提案し、洛陽側も受け入れていただいた。事業の実施にあたっては協会が事務局を担って日中教育交流協議会を設立し、岡山県内の教育関係財団の助成を得て実施している。
④ 交流の成果	(1)12年間に植樹した面積は301ha、植樹本数は約26万本に及び環境保全に貢献したが同時に市民同士の友好を深める場として位置づけ、毎年の市民訪問団に合わせ植樹ボランティアを募り市民にも参加いただき、現地の農家の方や近くの中学生らと共に汗を流して友情を育んだ。「中日友誼林」として高く評価されている。 (2)友好都市を理解する方法は様々あるが、やはり直接訪問することの効果は大きい。市民訪問団に参加した市民は友好協会に参加したり個人的に洛陽市の市民との友人関係を築いたりして、友好都市交流が行政主導でなく市民が参加する契機になっている。 (3)岡山を訪問した洛陽市の精神科病院である第五人民医院は岡山県精神科医療センターの開放的な病院づくりに共鳴して、改築する時、建築の参考にした。また、この交流の成果として両国の医療事情を比較した「日中医療便覧」を作成し、日中医療現状への理解を深めた。 (4)リアルでの訪問交流では学校視察と授業参観、生徒同士の交流などであるが、どうしても時間的にも人数的にも限られる。そういう意味で、リモートはZOOMミーティングのブレイクアウトルームの活用により、多くの生徒が同時並行的に交流できるメリットがある。
⑤ 今後の展望	(1)2021年から始まった「日中植樹・植林国際連帯事業」では、日中協働での事業を重視しており、ボランティア植樹に参加する経費の一部も助成対象としている。今後青少年を派遣して現地の青少年との交流を促し、相互理解と友好促進につなげる事業としていきたい。 (2)市民訪問団が途切れて2年たつが、アフターコロナでは相互市民訪問の窓口として行政と協働で再開していきたい。 (3)日本では医療人材確保への協力につなげ、また洛陽ではリハビリテーション病院への協力などを通じて、相互にメリットのある実質的交流につなげたい。 (4)ウィズコロナ時代では、リモートとリアルハイブリッド交流が継続すると思われる。その中で、これまでのリモート経験を活かし継続するとともに、交流した生徒や先生のリアル訪問交流にもつなげていきたい。
⑥ その他	

(2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「⑦その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	<p>(1)協会の寄附金だけでは規模が小さく、国の助成金を活用することにより、それなりの規模が確保でき、また、本年度から始まった日中友好会館助成はこれまでとは違い、経済力が豊かになった中国がほとんどの経費を負担する連帯的な方針がはっきりしており、今後の日中交流の方向を示すうえで先進的な取り組みとなっている。</p> <p>(2)市民交流と観光をミックスした旅行形態、また行政と市民のコラボでの訪問団として特別感ある市民訪問団である。</p> <p>(3)日本の医療を中国に紹介し今後の医療インバウンドの普及にもつながり、同時に中国の医療にも貢献できる。</p> <p>(4)これまでの代表だけの少人数での交流から学校単位で交流が可能となり、費用的にも学校負担が無いようにサポートする仕組みを作り、でウィズコロナ時代の交流の形を切り開いた。</p>
② 独自性	<p>(1)植樹場所は洛陽市の黄河沿いに集中して実施しており、友好都市交流の大きな柱となり、洛陽市政府のバックアップを得て、孟津県、新安県の政府と林業局の協力体制を得ることができており、意思疎通や危機管理にも対応できている。また市民参加が前提となっている点も独自の取り組みである。</p> <p>(2)洛陽市人民対外友好協会を受入れとする「市民交流＋観光」の旅行は一般の旅行社では企画できない。</p> <p>(3)岡山県内のほぼすべての医療機関とのネットワークにより、中国側からの専門的視察交流要望に応えることができる。当協会と医療界の信頼関係がベースにある。</p> <p>(4)40年余りの実績と信頼関係により、カウンターパートに直接働きかけ、手配が出来るため交流希望校の選定がスムーズにできている。</p>
③ 継続性	<p>(1)緑化事業は100年の大計として中国としても重要視しているのと、日中両国の協力プロジェクトとして位置づけられており、SDGs活動目標の一環として、また青少年教育交流の場としても継続性が認められる。</p> <p>(2)友好都市関係はこれからも継続し、行政と市民が一体となって交流する形は今後も継続していく。</p> <p>(3)今後中国の日本に対する医療ニーズは変化してくる。特に高齢化への対応で日中が協力できる分野が多く、また国際医療病院の認証を取得する県内の病院も増加している。</p> <p>(4)コロナが明けてリアルな教育交流が復活しても、より多くの学校や生徒が参加できる、また費用や時間も節約できるオンライン交流の形はなくなる。ハイブリッドでの継続ができる。</p>
④ 活発性	<p>(1)両市の市民参加、特に青少年の参加によるボランティア植樹を推進することにより活発な協力活動になる。洛陽市側では地元農民、高校生などに植樹活動と呼びかけている。日中友誼の意義についても併せて啓発している。</p> <p>(2)市民訪問団の訪問の時に、岡山の民族音楽グループに参加いただき、現地の音楽家と合同演奏会を開催したり、ビジットホームなどを実施したり、新たな広がりが出ている。</p> <p>(3)コロナ禍の中で交流が出来ていないが、医師、看護師のみならず検査技師などコミニカル分野への交流要望が出ており広がりを期待している。</p> <p>(4)オンラインでの交流により今回の中学校では8クラス約300名、双方約700名の生徒が参加できると、会を重ねて生徒自身がテーマを決めて事前研究して交流できるので学習効果と国際理解教育への広がりが出ている。</p>
⑤ 協働性・連携性	<p>(1)緑化事業推進にあたって、岡山大学農学部専門的なアドバイスと土壌調査や植林計画で指導協力を得ている。カウンターパートは洛陽市人民対外友好協会。洛陽では河南省政府、洛陽市政府と県、林業局、地元農民との連絡調整など各分野との協力連携により実施している。</p> <p>(2)市民訪問団企画にあたっては岡山市と事前協議し現地での活動について、連携している。</p> <p>(3)協会内の日中医療交流促進委員会が岡山県病院協会や総合病院の院長等と連絡連携し、相手方の要望に沿った受入れ手配をしている。</p> <p>(4)岡山県教育委員会がグローバル教育を方針にかかげ、都市教育長協議会の協力も得て、学校へのアプローチがスムーズに進んでいる。</p>

<p>⑥ 効果 (相手方に与えた影響や効果を含む)</p>	<p>(1) 自主事業から14年間に及ぶ継続した事業により、土砂流出や空気汚染の防止という直接的な効果以外に、日ごろ関りの少ない友好都市の存在が身近に感じてもらっていることや緑化意識の向上にも役立っている。 (2) 訪問団を契機に独自に両市の民族音楽交流会が3年間継続して実施されるようになるなど新たな動きにつながっている。 (3) 両国の医療事情の違いと共通性についての理解が進み、リハビリテーションへの協力要請や、医療インバウンドへの波及効果がありコロナ明けには実施したい。 (4) これまで交流のできなかった学校でも条件が合えば触れ合いが出来るという認識が広がった。また、リアルでは実現できなかった支援学校の交流にもつながった。</p>
<p>⑦ その他 (500文字以内)</p>	<p>・協会は1981年の設立以来「市民みんなで日中友好」を旗頭に、協会が舞台裏を支え、市民が主人公となって身近に友好を感じてもらえるように活動してきた。特に行政との協働を重視し、40年間民間交流を途切れることな継続してきた。 ・コロナ禍の中、限られた条件の中でも連絡を絶やさず、リモート交流を促進している。また40周年を記念して地元のテレビ局テレビせとうちが、岡山市と友好協会の取組みを紹介した特別番組を制作し市民への大きな啓発活動となった。</p>

※定量的に示すことが可能な実績があれば、積極的に記載ください。

【審査のポイント】

<p>①先進性</p>	<p>・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。</p>
<p>②独自性</p>	<p>・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。</p>
<p>③継続性</p>	<p>・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。 ・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。</p>
<p>④活発性</p>	<p>・活動内容が質量ともに充実しているか。 ・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。 ・双方の自治体の住民への広がりがあるか。</p>
<p>⑤協働性・連携性</p>	<p>・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。 ・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。</p>
<p>⑥効果</p>	<p>・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。</p>